

市町名	沼津市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	

実施開始年度	平成 12 年度
--------	----------



活動名	自信がもてる子育て講座			
実施箇所名	沼津市教育委員会事務局 生涯学習課			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭教育支援、保護者への学習機会の提供		
	開催日数等	年間11回	実施場所	サンウェルぬまづ
	受講者数	延べ221人	ボランティア数	延べ34人
	<概要・特徴>	<p>乳幼児期から思春期の子どもをもつ保護者及び子育てに関心のある方を対象に、子どもへの理解を深め、保護者としてのあり方を学ぶ機会を目的として実施している。</p> <p>テーマは、子どもの意欲や興味を見守る子育てやSNS・スマホとの付き合い方等多岐にわたる内容としている。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座内容が偏らないように、幅広いテーマ及び講師を選定した。 ・子どもがいる受講者の受け皿として、別室での子ども同伴受講や託児を試行した。 ・家庭教育支援員を活用したグループワークを実施し、受講者同士で子育てにおける悩みの共有や交流を行うことができた。 		
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の子育てを振り返り、講座で学んだ内容を実践に移してみようという意欲を持った受講生が多くみられた。 ・託児を行ったことで、受講者が集中して受講することができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークは受講者にとってハードルが高く、参加者が少ない傾向にあったため、誰もが参加しやすい環境づくりが必要である。 			
備考	託児ボランティアは毎回8～9人程度であり、託児利用者(子ども)は各回5名を定員としている。			

参考URL	https://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/kyoiku/kyoiku/shougai/kouza/katei_k.htm
-------	---

市町名	熱海市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 元 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	共働き家庭が増加し、家庭教育学級に参加できる保護者が少なくなってきた現状を踏まえ、就学時健診は、就学を迎えるとの保護者も参加するため、この機会に家庭教育についての相談の場を設けることになった。
--------	--

活動名	子育ておしゃべりサロン		
実施箇所名	熱海市中央公民館・南熱海マリンホール		
活動の概要・特徴・工夫	目的	就学に向けてのママ友づくり・就学や子育ての悩みや不安を相談	
	開催日数等	3日間	実施場所 和室(公民館)・ロビー
	参加保護者数	全70人	ボランティア数 4人
	<概要・特徴> 今までは、1対1の相談の形式をとっていたが、就学前という機会を活かし今回よりママ友づくりを目的とするため、家庭教育支援員がファシリテーターとなって、同じ小学校に入学予定の保護者2~5名と悩みを話し合う座談会形式で実施した。また、図書館の読み聞かせアドバイザーと連携し、座談会中に子どもたちに絵本の読み聞かせを行い、保護者が安心して相談できる環境をつくった。		
	<活動上の工夫> ・市役所内の横の連携(生涯学習課×学校教育課×図書館) …就学時健診の案内文書発送時に本イベントのチラシを同封するなど周知徹底に努めた結果、集客につながった …実施会場には学童クラブのご案内や図書館の読み聞かせ実施日のお知らせ、つながるシートや家庭教育支援員の活動紹介など子育てに関するお知らせコーナーを設けた		
連携先	読み聞かせアドバイザー(図書館)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援員がファシリテーターとなることで、保護者は円滑に話し合うことができ、座談会が終わっても、保護者のみで悩みを話し合う様子が見られ、目的であったママ友づくり(保護者の繋がりづくり)ができた ・対象者126人中70名と6割の保護者に参加いただき、アンケートを回収できたことで、保護者の悩みの傾向について知ることができ、今後の活動につながる情報が得られた。また、参加者の8割が本イベントに高評価いただきフィードバックができた 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・予想を上回る参加者であったため、人員不足であった。平日の午後(13:00~15:00)のため、働いている家庭教育支援員はなかなか都合がつきにくい時間帯だが、連携部署を増やすなど(健康づくり課や子育て支援室など)して、スムーズに運営を行えるようにしたい 		
備考			

参考URL	https://www.city.atami.lg.jp/kosodate/shogaigakushu/1011161/1004983.html
-------	---

市町名	三島市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 4 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	三島市家庭教育支援事業は、平成27年度に静岡県教育委員会のモデル5市の一つとして活動を始め、同年度に文部科学省の「家庭教育支援チーム」としても登録されている。今年度より、アウトリーチ型支援にも力を入れていきたいということで、出張版の「個別相談会」を行うことにした。
--------	--

活動名	出張「個別相談会」(アウトリーチ型支援)			
実施箇所名	大型商業施設			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	2日間	実施場所	市内大型商業施設
	参加者数	21組(60名程度)	家庭教育支援員	5人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> これまで、各小中学校へ訪問して実施していた「個別相談会」を、アウトリーチ型支援として大型商業施設で行うことにした。 三島市子育て支援課と一般社団法人ママとね共催の「三島市子育て支援フェア」のブースの一つとして「個別相談会」を実施、三島市生涯学習課が時間と場所を確保した。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 相談中、相談者のお子様様が待ってられるように、塗り絵コーナーを設けたり、お土産に折り紙で作ったおもちゃなどを用意したりした。塗り絵の用紙やおもちゃは、三島市児童センター(三島市生涯学習センター内)の職員に協力を依頼、作成していただいた。 オープンスペースであったため、パーティションで仕切りをつくるようにした。 相談にのった家庭教育支援員に名刺を用意した。その名刺の裏面には個別相談受付フォームに繋がるQRコードを載せて、いつでも対応できるようにした。 各小中学校で行っている「家庭教育講座」「個別相談会」や、各企業でのアウトリーチ型支援について、広く周知するための広告を作成、パーティションに掲示した。 			
	連携先	三島市子育て支援課、一般社団法人ママとね、三島市児童センター、三島市生涯学習課		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 塗り絵コーナーやお土産のおもちゃを用意したことで、相談までの敷居を下げることができ、多くの保護者に、気軽に寄っていただくことができた。 学校では出会うことが難しい方や未就学児童の保護者の方が立ち寄ってくださり、お話をすることができた。 通りすがりの方が掲示した広告をじっくりと見ている様子があり、三島市家庭教育支援事業について知っていただくことはできたのではないかとと思う。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> オープンスペースであったため、じっくりと相談するというのは難しかった。 <p>※想定外の範囲内であり、このフェアをきっかけに「三島市家庭教育支援事業」について広く知っていただくこと、そして、各学校で行う講座・相談会への参加、企業等でのアウトリーチ型支援の実施、学校外での個別相談会の実施につながればという共通理解の下、活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めての試みだったため、掲示物や配布したチラシの内容については、さらに充実させていく必要がある。 			
備考	※今回は、三島市家庭教育支援員と担当課のみで活動を行ったが、三島市児童センターでも三島市子育てコンシェルジュを活用した子育て相談会等も行っていることから、次回以降は一緒に活動を行っていくことも検討していきたい。			
参考URL				

市町名	三島市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 27 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	三島市では、平成27年度に静岡県教育委員会のモデル5市の一つとして活動を始め、同年度に文部科学省の「家庭教育支援チーム」としても登録されている。
--------	--

活動名	家庭教育講座・個別相談会			
実施箇所名	市内21小中学校 市役所 など			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	35回程度	実施場所	各小中学校等
	参加保護者数	200人	家庭教育支援員(5名) 家庭教育サポーター(5名)	10人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> すべての保護者が安心して家庭教育を行えるように「つながるシート」を活用して、講座、相談を実施。 市内の小中学校や幼稚園を会場として、保護者の皆さんへ学習の機会の提供や家庭教育相談の実施等、家庭教育支援活動を行っている。 家庭教育支援員(通称:家庭教育アドバイザー)の他に家庭教育サポーター(元PTA役員経験者)がいるので、グループトークで話しやすい雰囲気づくりをしている。 個別相談会については、事前にチラシを各校で配布し開催を知らせている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 月に1回程度、家庭教育支援員と家庭教育サポーターが打合せを行い、講座実施を確認している。(講座の内容、司会、アイスブレイク役などを決定) 依頼のあったテーマについて県から出ている「つながるシート」を参考に「三島版つながるシート」を児童生徒や地域の実態に合わせて作成している。 講座実施後、参加者からアンケートを取り、次の講座等に生かしている。 個別相談会では、授業参観日や保護者面談の日に設定することが多く、予約なしで相談することも可能にし、多くの方が利用できるようにしている。 			
	連携先	各学校、各学校PTA、家庭教育学級、三島市教育委員会生涯学習課等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 小グループでのグループトーク形式にすることで、話しやすい雰囲気をつくり、楽しんで講座に参加している。 保護者が自分の子育てや家庭教育を振り返ったり、参考になる情報を得たりして、学び合うことができている。 コロナ禍により、学級・学年懇談会などが減ってしまっている。講座を行うことで、保護者同士のつながりを築いたり、深めたりする場の提供にもなっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> すべての保護者が参加することができない。 学校・家庭教育学級内での適切な講座時間の確保が難しい。(最低でも1時間は確保したいが、学校や家庭教育学級からの要望で行っているために無理なお願いはできない。) 働く保護者が子供を通わせている保育園では、家庭教育講座の実施が難しい。 			
備考	※学校の負担にならないように、準備や片付け等は、家庭教育支援員・家庭教育サポーター・担当課で行っている。			

参考URL	
-------	--

市町名	富士市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	

実施開始年度	昭和60年代以前
--------	----------



活動名	家庭教育講座「伝法かんがるークラブ」			
実施箇所名	伝法まちづくりセンター			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	全5回	実施場所	伝法まちづくりセンター
	参加児童・生徒数	50 人	ボランティア数	人
	<p><概要・特徴> 未就園児と保護者を対象に、育児や子どもの成長に関する学習をするとともに、保護者同士が交流を深めることなどを目的としている。主に、子どもとの関わり方、自立心、生活習慣等、子どもの教育や健康、性格形成期の問題などをグループワークを通じて気づきを得られるようにした。</p> <p><活動上の工夫> ・行政からの情報提供を意識的に行った。 ・専門分野の講師の話が聞ける。 ・地区住民とのつながりができるようにする(地区読み聞かせ団体を活用。) ・初回と最終回を同じ講師が担当し、子どもの成長や悩み等を共有しやすくした。 ・家庭内では取り組みにくい遊びや体験を通して、我が子の成長を感じる機会を持つようにした。</p>			
	連携先	地区読み聞かせ団体、図書館司書、保健師、消防署職員、民生委員、家庭教育支援員		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 子育ての不安解消につながった。 同年代の親子のつながりが増え、友達作りに貢献できた。 講師から専門的なアドバイスが聞けた。 各地区で読み聞かせ活動をしているボランティアとつながり、おはなし会に参加するきっかけとなった。 地域のなかで我が子の成長を一緒に見守ってくれる人がいるという安心感を得ることができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 参加受講生の人数減少(広報の方法を検討したい。) 家庭教育支援員や関係他課との連携を充実させたい。 講座内容の精査。ニーズと合致しているのか検討が必要 			
備考				

参考URL	社会教育課instagram : https://www.instagram.com/fuji_shakaikyouiku_official/?hl=ja
-------	--

市町名 伊豆の国市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

活動名	伊豆の国市家庭教育支援事業			
実施箇所名	伊豆の国市内			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	保護者が抱えている子育ての不安を緩和し、健やかな子育てを支援する。		
	開催日数等	①4回 ②1回	実施場所	長岡中央公民館 他
	参加児童・生徒数	①9人 ②72人	ボランティア数	12人
	<概要・特徴>	<p>①家庭教育に関係した講座や、親子向け講座の開催</p> <p>②家庭教育講演会の開催</p> <p>他、家庭教育支援員の定例会を行い、コロナ下での活動について計画をしている。</p>		
	<活動上の工夫>	<p>・講座、講演会では、参加者からのアンケートを参考に、次回以降の開催内容に反映させている。</p> <p>・幼稚園、保育園、小中学校以外の場所でも活動ができるよう、家庭教育支援員が調整を行っている。</p>		
	連携先	市内幼稚園・保育園		
活動の成果	<p>・家庭教育についての講座では、参加者が自らの子育てを振り返ることができた、といった声が聞かれた。</p> <p>・学年の異なる子どもを持つ親同士の交流で、新たな繋がりづくりや情報交換の場として開催することができた。</p>			
課題等	<p>・生活様式や子育ての価値観の変化に合わせた活動が必要とされている。</p> <p>・活動が途絶えないよう、活動場所の確保に取り組む必要がある。</p>			
備考				

参考URL <https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/syakyo/manabi/kyoiku/index.html>

市町名	河津町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	昭和60年ごろ
--------	---------

立ち上げ経緯	町内の幼稚園、小・中学校に父兄による家庭教育学級を設置。学校との連携で年次計画を立案し、活動を行う。懇談会や学習会を通して、生き生きとした未来に繋がる生活の実現を図る。
--------	--

活動名	家庭教育学級			
実施箇所名	町内幼稚園・小中学校に各1学級			
活動の概要・特徴・工夫	目的	立ち上げ経緯と同じ		
	開催日数等	各学級年35回程度	実施場所	各学校・町内各所
	参加者数	延べ350人	家庭教育支援員	2人
	<p><概要・特徴> 町より委託費を支出。家庭教育支援員を育成し(現在2名)、講話などを行う。体験活動や親子共同制作などにより、地域を越えたふれあいづくりを行っている。活動の一部(ものづくり)を町民文化祭などで展示。</p>			
	連携先	他学校等(幼稚園・小学校・中学校)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 目に見える成果はないが、参加者に必要と思われるので、継続的に活動が行われている。 人によっては他地域より河津に来ているため、仲間づくりの一環になっている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 少子化により参加人数の減少がみられる。 			
備考	令和5年度より小学校統合により、学級数が減少する。			

参考URL	
-------	--

市町名	松崎町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 4 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	地域のつながりが希薄化する中で、保護者同士の横のつながりを作っていただく場を提供することを目的としている。
--------	---

活動名	おしゃべり会			
実施箇所名	松崎町立児童館			
活動の概要・特徴・工夫	目的	(例: 学校支援、居場所づくり、地域の人材育成、まちづくり等)		
	開催日数等	3回	実施場所	松崎町立児童館
	参加児童・生徒数	30 人	ボランティア数	2 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭教育支援員が主となって、未就園時の保護者を対象に、子育ての悩み等について、話してもらっている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 県が作成したつながるワークシートを利用しながら、話し合いを行っている。また、アンケート調査を実施し、内容について検討している。児童館に協力していただき、保護者が会に参加している時は、児童館の職員に子どもを見ていただいている。 			
	連携先	(例: 自治会、公民館、シニアクラブ、読み聞かせボランティア、企業、他学校等)		
活動の成果	・参加した保護者からは、普段話せない悩みを話せることもあるようで、こういった場があることで、好評をいただいている。			
課題等	・参加者の重複等もあるため、開催内容について検討が必要。			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	松崎町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



立ち上げ経緯	(例:地域の要望から発足) ※新たに活動を始められる他市町・団体の参考となるような情報提供をお願いします。 資料が残っていない場合など不明な場合は空欄でも構いません。
--------	---

活動名	親学講座			
実施箇所名	松崎町農村環境改善センター			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	(例:学校支援、居場所づくり、地域の人材育成、まちづくり等)		
	開催日数等	1日	実施場所	
	参加児童・生徒数	30人	ボランティア数	人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度小学生にあがる子供のいる保護者を対象に、人づくり推進より、子育てについて、講話を行った。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 就学時健診と合わせて実施することで、待ち時間等を利用している。 			
	連携先	(例:自治会、公民館、シニアクラブ、読み聞かせボランティア、企業、他学校等)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 入学を控え、不安を抱えている保護者の悩みについて、寄り添えた内容となっていたと感じる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	函南町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	

実施開始年度	平成 29 年度
--------	----------



活動名	家庭教育講座			
実施箇所名	函南町立幼稚園			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	年1回(年1園)	実施場所	幼稚園遊戯室等
	参加保護者数	約20人	ボランティア数	4人
	<p>家庭教育支援員による「つながるシート」を活用した講座を実施。保護者同士で子育てや家庭教育について意見を交換する場を設けることで、保護者が抱える悩みや不安の軽減、解消につなげることを目的とする。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの保護者に参加していただけるよう、幼稚園の保護者会や懇談会等の保護者が集まる場で実施している。 			
	連携先	家庭教育支援員、町内幼稚園		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士のつながりを深めることができる。 ・保護者が抱える悩みや不安を共有することで、ストレスや負担の軽減につながる。 ・家庭教育支援員の活動を周知する機会になる。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援員の高齢化、新たな支援員の人材確保が課題である。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	函南町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



活動名	家庭教育支援講演会			
実施箇所名	函南町文化センター			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	年1回	実施場所	大ホール
	参加者数	約100人	ボランティア数	約20人
	<p><概要・特徴></p> <p>函南町立幼稚園PTAと共催で、外部講師による子育てに関する講演会を開催する。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して参加できるよう、未就学児を対象に託児を実施している。 ・幼稚園PTAとの共催事業にすることで、保護者のニーズや興味を講演内容に取り入れやすい。 			
	連携先	函南町立幼稚園PTA、託児ボランティア		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者のアンケート結果から、子育てについて前向きに考え、家庭で実践しようとする意欲的な意見が多くみられた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・平日昼間に開催しているため、参加者が限られ、幼稚園PTA以外の参加がほとんどない。 ・講演会という形式上、家庭教育や子育てに関心がある保護者の参加が多く、真に支援を必要としている保護者の参加は見込みにくい。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名 清水町

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



幼稚園での家庭教育講座の様子

活動名	家庭教育支援員派遣事業	
実施箇所名	町内幼稚園・小学校・中学校	
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	保護者の孤立化を防ぎ、地域で家庭教育支援の推進を図る。
	<p><概要・特徴> 家庭教育支援員が幼稚園や小学校、中学校等の保護者会、家庭教育学級、子育て講座などの保護者が集まる場で、つながるシートを活用し、参加者の交流・子育てについての悩みや不安を話し合う家庭教育講座等を行う。</p> <p><活動上の工夫> ・家庭教育講座では、アイスブレイクを行い、参加者がリラックスした雰囲気でき意見交換できるようにしている。 ・学校等からの家庭教育支援員の派遣要請により家庭教育学級の企画・運営にサポートできるようにしている。</p>	
	連携先	家庭教育支援員、幼稚園・学校等
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の子育ての様子、不安や悩みを和やかな雰囲気でき共有できている。 ・普段話さない保護者間のつながりが広がり、交流を深めることができている。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を話せない外国籍の保護者が増えているため、対応を検討する必要がある。 ・開催日は幼稚園や学校等と調整して行っているが、参加者からは年度当初や入園児・入学時などの節目始めの開催時期を希望する意見が多い。 	
備考		
参考URL		

市町名	長泉町
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 3 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	校区や年齢の枠を超えた保護者同士の交流の場を創設するとともに、家庭教育支援員のコーディネート力を生かし、家庭教育の重要性を伝える場が必要であると考えたため。
--------	--

活動名	パパママ座談会(子育て座談会)			
実施箇所名	コミュニティながいずみ(コミュニティセンター)			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭教育支援		
	開催日数等	年5日程度	実施場所	コミュニティセンター
	参加児童・生徒数	1日5人程度	ボランティア数	5人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 子育てに励む保護者を対象に、子連れで参加できる座談会の場を設定。家庭教育支援員がコーディネーターとなり、座談会の進行を行っている。参加者の要望に応じて、家庭教育支援員が個別相談を実施したり、相談内容によっては家庭教育支援チームの中の専門家につなげる。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働本部のボランティアが託児を行っている。 冬には家庭教育学級生のOGによるハンドベル演奏団体がミニコンサートを開き、また、演奏体験を行うなど、親子で楽しめるイベントを実施した。 			
	連携先	家庭教育支援チーム・地域学校協働本部・生涯学習関係団体		
活動の成果	<p>かしこまった場所でなく、のんびりと子どもを遊ばせながら参加できてよかったという感想が多い。</p> <p>異年齢の子どもを持つ保護者同士が集まって悩みや経験を話すことで、不安が和らいだり、心が軽くなったりする場となった。</p>			
課題等	保護者同士の交流の場だけでなく、参加者同士がより学び合う場とするため、学習プログラムを考案する必要がある。			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	島田市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 25 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	就学時健診及び入学説明会の全ての保護者が集まる機会において、小学校入学という節目にこれまでの成長とこれからの学びについて考える機会となるよう、島田市ペアレントサポーター家庭教育サポートチームの活動として開始した。
--------	--

活動名	親学講座			
実施箇所名	市内17小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭教育の推進		
	開催日数等	各校1回	実施場所	各学校
	参加保護者数	2~105人	スタッフ数	1人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・翌年度の新一年生の保護者全てを対象に、就学時健診または入学説明会で15分間の講座を行っている。 ・ペアレントサポーターが講師となり、各学校の特徴を踏まえながら、アイスブレイクを含めた内容で入学前のポイントを伝えている。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に親学ノートの内容を見直し、6つのよいよい親子関係を築くポイントを中心にリニューアルした。 ・ペアレントサポーター定例会を開催し、各学校の親学講座の様子や課題を共有することで、よりよい講座となるよう努めている。 ・就学時健診または入学説明会で開催できるよう学校と調整し、連携を図っている。また、実施後にアンケートを依頼し、講座の充実につなげている。 			
	連携先	市内17小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な先輩ママであるペアレントサポーターが、自身の失敗談を交えながら伝えることで、入学前の保護者の不安を和らげているとともに、保護者は親近感を持つことができ、話を受け入れられる。 ・講座全体については、入学前に身につけたい生活習慣や子供への接し方について、具体的な事例が分かりやすいという評価を得ている。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てや仕事をしながらの活動であるため、人材確保が課題である。 ・入学前の親学講座から入学後のつながるトークへとつなげることで、保護者の学びが継続できる体制を強化していきたい。 			
備考				

参考URL	https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/293511702.html
-------	---

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 26 年度

立ち上げ経緯 県のつながるシートを参考に「島田市版つながるシート」を作成し、島田市ペアレントサポーター家庭教育サポートチームの活動として、つながるシートを活用した学習会を開始した。

活動名	つながるトーク			
実施箇所名	市内17小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	保護者同士の学び合い、情報交換、仲間づくり		
	開催日数等	各校1回	実施場所	各学校
	参加保護者数	6~38人	スタッフ数	1人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全小学校の家庭教育学級において、必須の学習会として開催している。 ペアレントサポーターがファシリテーターとなり、家庭教育学級長と6つのテーマの中からシートを選び実施している。 島田市版つながるシートは、小学一年生の保護者向けに実際に島田市で起きた事例を使用する等、身近なエピソードや資料を基に話し合いができるよう作成した。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ペアレントサポーターがアイスブレイクを含めた内容で、和やかな雰囲気づくりをしている。 つながるシートの内容については、随時見直し、より共感・学び合いが深まるよう更新している。 ペアレントサポーター定例会を開催し、各学校のつながるトークの様子や課題を共有することで、よりよい学習会となるよう努めている。 			
	連携先	市内17小学校		
	活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 小学一年生の保護者に対して、必須の学習会としているため、全小学校で活動が定着している。 ペアレントサポーターが和やかな雰囲気作りをするため、保護者はスムーズに話し合いができ、共有・共感・学び合いができています。また、日頃の何気ない悩みや不安について相談できることも、保護者の安心につながっている。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 子育てや仕事をしながらの活動であるため、人材確保が課題である。 新型コロナウイルス感染拡大状況により、学校での開催は中止となる場合があるため、中止となっても保護者に学びを届けられるような工夫が必要である。 			
備考	島田市版つながるシート 6つのテーマ ①生活習慣、②家庭学習、③ほめ方、叱り方、④親の心構え、⑤ネット社会、⑥読書			

参考URL

<https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/293511702.html>

市町名	島田市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 17 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	島田市ペアレントサポーター子育て広場チームの活動として、未就学児の親子の居場所づくりとして開始した。
--------	--

活動名	子育て広場 ぐうちよきばあ		
実施場所名	島田市立島田第一中学校 地域連携室		
活動の概要・特徴・工夫	目的	居場所づくり	
	開催日数等	月1回(年12回)	実施場所 島一中 地域連携室
	参加親子数	平均20 組/回	スタッフ数 5 人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 未就学児の親子を対象とした居場所づくりとして、毎月1回子育て広場を開催し、情報交換や日常的な交流の場を提供している。 ペアレントサポーターがスタッフとして常駐し、和やかな雰囲気をつくるとともに、家庭教育相談にも対応し、子育て応援課や健康づくり課等の関係課と連携している。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て広場の最後には、わらべうたや読み聞かせを行い、親子で穏やかな時間を過ごせるよう工夫している。 新型コロナウイルス感染防止対策として、検温・消毒・換気を徹底して実施している。 		
	連携先	島田第一中学校	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 同じ月齢の子供の様子を見たり保護者同士で話をしたりすることで、子育ての悩みや楽しみを共有できる場となっている。 ペアレントサポーターがスタッフとして常駐し、親子と顔見知りになることで、日頃のちょっとした悩みも気軽に相談できる環境ができています。 家庭教育講座で知り合った親子の集まる場にもなっており、コロナ禍でも人とつながれる大切な場となっている。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> より充実した活動となるよう財源確保が課題である。 共働き家庭の増加により、幼稚園や保育園に入園する前の短期間での参加者が増えたため、会話の中から不安や悩みを読み取り、保護者に寄り添った活動をより意識していきたい。 		
備考			

参考URL	https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/293511702.html
-------	---

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 29 年度

立ち上げ経緯

島田市子ども読書活動推進計画(第三次計画)に基づき、大人を対象とした読み聞かせ講座を開催するため、島田市ペアレントサポーターに「読書推進チーム」を設け、講座を実施している。

活動名	パパとママのための絵本の広場			
実施場所名	金谷公民館・初倉公民館			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭読書の推進		
	開催日数等	年2回	実施場所	公民館
	参加保護者数	大人延べ23人	スタッフ数	6人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> まずは大人が読み聞かせの心地よさを感じ、絵本の良さにふれることで、家庭読書のきっかけづくりの場となるよう企画している。 未就学児をもつ親を対象とし、ペアレントサポーターによる読み聞かせや絵本の紹介、図書館司書による講話、ブックトークを行う。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 夫婦で参加しやすいよう日曜日に開催している。 ペアレントサポーターが選書した「おすすめ絵本リスト」を配布し、ペアレントサポーターのおすすめポイントや、市内3図書館での所蔵を記載している。 			
	連携先	公民館、図書館		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ペアレントサポーターの「おすすめの絵本」の紹介により、保護者が様々なジャンルの本を知ることができる。また、それらの本を実際に手に取って読むことにより、保護者が自身の考え方や視野の広がりを実感している。 様々な絵本にふれることで、保護者自身が読書を好きになり、子供への読み聞かせや親子読書の時間づくりが促進されている。 参加者からは、「絵本を読むことを通じて愛情が伝わるのが再認識できた」「自分も楽しんで読み聞かせしたい」との感想があった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 講座に参加していない人へのアプローチが課題である。 家庭での読み聞かせに加え、図書館の利用や地域のおはなし会への参加についてもつなげていきたい。 			
備考				

参考URL

<https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/293511702.html>

市町名 島田市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯

核家族化と少子化の進展により、日頃赤ちゃんとふれあう機会が少なくなった子供たちに、命の尊さや子供を産み育てることの素晴らしさを知ってもらうことを主な目的として、これから親となる中学3年生に対する「親になること」への準備学習として実施するもの

活動名	中学生赤ちゃんふれあい体験事業			
実施箇所名	島田市立島田第一中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	異世代交流、命の大切さを学ぶ、家族への感謝、社会で自分ができることを考える、親子に関わることで新しい視点を持つ		
	開催日数等	10/31、11/7、11/8	実施場所	島田第一中学校
	参加児童・生徒数	延べ299 人	スタッフ数	6 人
	<p><概要・特徴></p> <p>赤ちゃん親子とのふれあい体験より、生命が誕生することの神秘や命の尊さ、家族の絆の大切さを感じとり、子供を産み育てることの素晴らしさや自分の育ちに関心を持ち、自分も大切に育てられてきたことを実感する。また、主に市内在住の赤ちゃん親子と交流することにより、中学生と地域の方々とのつながりを強化していく。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生学と赤ちゃんの抱っこ方法を学ぶ事前学習と実際に赤ちゃん親子と交流する実践学習に分けて開催している。 ・1時限1クラスとし、1クラスを5～6班に分け、1班に1人のペアレントサポーター及び1組以上の赤ちゃん親子を配置し、安心安全にできるだけ長い時間赤ちゃん親子と交流できるように努めている。 			
	連携先	島田第一中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生が「赤ちゃんとは接することができる」と回答した割合は、実施前後で5割から約9割に増加した。 ・自分が大切に育てられてきたという認識が実施前より高まった。 ・赤ちゃんを直接抱っこしたことにより、将来子供を育てたいという生徒が4割から7割弱まで増加した。 ・事業実施前は、赤ちゃんに対するイメージが否定的なコメントが多かったが、実施後では肯定的なコメントが多かった。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・参加してもらえる赤ちゃんは2か月～8か月が理想である。10か月以上になると人見知りをしてぐずって抱っこできないなど、交流が難しい。 ・赤ちゃん親子が集まりづらい傾向にあること。新型コロナウイルス感染症があるため、多数の生徒と交流することに抵抗がある赤ちゃん親子が多い。 			
備考				

参考URL

市町名 掛川市

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿n)	



実施開始年度 平成 31 年度

立ち上げ経緯

※「掛川市家庭教育サポートチームつなぐ」のメンバーから、懇談会等に出れない悩みを抱えた保護者を支援できないかという要望があり、10名程のサポーターで「おしゃべりサロン」を立ち上げた。その後、「つなぐ」事務局と共に、年間4、5回の相談活動に取り組んできた。

活動名	おしゃべりサロン(相談活動)			
実施箇所名	地域生涯学習センター・公民館・小学校等			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	「入学前の悩み・心配事をお話ししましょう」就学児を持つ保護者の相談対応		
	開催日数等	令和5年2月14日	実施場所	掛川市中央小学校地域生涯学習センター
	参加保護者数	6人	ボランティア数	6人
	<p><概要・特徴></p> <ul style="list-style-type: none"> 中央小学校入学児童の保護者を対象に、当日の「入学説明会」後に、隣接する地域生涯学習センターで、就学に際する悩みや心配事の相談に個別に対応した。 <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> 「つなぐ」の活動や、当日の活動を知ってもらうために、チラシを用意した。 チラシの配布を学校にお願いし、11月の「就学児健診」時に配布していただいた。また、当日の相談も可とし、「入学説明会」でも紹介していただいた。 会場を、説明会会場の体育館に隣接するセンターにして、保護者が気軽に寄れるようにした。 当日の相談対応には、元小学校教員や、カウンセリングや発達障害についての実績のあるサポーターをお願いした。 			
	連携先	小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> 事前の予約では1名であったが、当日の呼びかけにより参加者が5名となり、計6名の保護者が参加した。それぞれの保護者の相談に、サポーターが1名ずつ対応した。 保護者の多くは、子どもの発達や、生活習慣についての悩みを抱えていたが、サポーターに聞いてもらうことで安心して帰られた。専門的な対応は難しいが、保護者の不安を軽減するという点では成果があったと考える。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 「つなぐ」の活動がまだ広く知られていない現状である。今後も地道に周知をはかっていく。 相談活動は、誰でもできるわけではない。カウンセリングや発達障害等についての知識やスキルを持った方が必要となり、人材育成にも取り組んでいく必要がある。しかし、サポーターの数にも限りがあり、人材不足が今後の大きな課題である。 			
備考				

参考URL

city.kakegawa.shizuoka.jp/gyosei/docs/290327.html

市町名	藤枝市
-----	-----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



メディアモラル指導者研修会の様子

実施開始年度	令和 元 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	昨今、スマホ等のデジタル機器が乳幼児にとっても不可欠な子守道具となっている実態を鑑みて、デジタル機器を乳幼児に触れさせることで悪影響が出ることがないように保護者向けのメディアモラル講座を開始した。
--------	--

活動名	メディアモラル講座			
実施箇所名	市内幼稚園、保育園、認定こども園			
活動の概要・特徴・工夫	目的	家庭教育の支援、地域の人材育成		
	開催日数等	年8回程度	実施場所	市内幼稚園、保育園、認定こども園
	参加者数	204 人	ボランティア数	8 人
	<p><概要・特徴></p> <p>幼児教育における専門的資質・能力を向上するための研修会を実施し、その受講者が未就学児の保護者を対象としたメディアモラル講座の指導者となり、要望のあった市内幼稚園・保育園等にて約20分程度の指導を行っている。</p> <p><活動上の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> メディアモラル講座を単体で実施するのではなく、既存事業（子育て出前講座）と同時に開催することで、より多くの方に情報機器の安全利用について周知している。 毎年1回ケータイ・スマホルールアドバイザー登録者と家庭教育支援員の方を対象にメディアモラル指導者研修会を開催することで、指導者の育成を図っており、両者の交流の場ともなっている。 			
	連携先	ケータイ・スマホルールアドバイザー、家庭教育支援員		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> スマホ使用の低年齢化が進むなか、情報機器の利用が習慣化する前に保護者に啓発することができた。 指導者を対象とした研修会を開催し、家庭教育支援員、ケータイ・スマホルールアドバイザー登録者に活動の場を作ることで、地域の人材育成・活用にも繋げることができた。 			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 新たな人材の確保。 事業の更なる周知。 			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	牧之原市
-----	------

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 17 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	平成17年度に市町村合併をしたためそれ以前のデータが無く、正式な開始年度と経緯は不明。
--------	---

活動名	牧之原市家庭教育支援学級			
実施箇所名	市内保育園・幼稚園・小中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	保護者同士の繋がりを作ること。家庭と地域をつなげ、地域で家庭や子供たちを見守り支える仕組みを創出すること。		
	開催日数等	年5回(各学級)	実施場所	市内各園、各校、公共施設等
	参加児童・生徒数	学級により異なる	ボランティア数	各学級5人程度
	<概要・特徴>	子供に社会で生き抜く力を身に付けさせるのと同時に、保護者の子育て不安の解消や家庭と地域を繋げることを目的として毎年開講している。		
	<活動上の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間の活動計画の立案や学級の運営を各園・各校のPTAに委託している。 ・ 地域住民や企業、NPO法人等に家庭教育支援学級への協力を依頼している。 ・ 年に1回テレビ寺子屋を誘致し、子育てに関する講話を聴く機会を創出している。 		
	連携先	地域住民、一般企業、NPO法人		
活動の成果	・ 1年を通して家庭教育学級に参加することで、学級生同士の繋がりが生まれ、子育てに関する悩みを相談しやすい環境作りに寄与している。			
課題等	・ 多忙な保護者が多く、例年「家庭教育学級の運営が負担だ」という意見が出るため、事務量の見直しに苦慮している。			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	森町
-----	----

地域学校協働本部	
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	○
その他(通学合宿等)	



家庭教育学級でミニ門松づくり

実施開始年度	昭和 不明 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	森町には公民館がないため、家庭教育の充実を願い各園校に各種学級の学習会を委託し開始した。
--------	--

活動名	各種学級（幼児教育学級・家庭教育学級・親子教育学級）の学習会		
実施箇所名	町内保育園・幼稚園・小学校・中学校 他		
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	親の家庭教育向上と親同士の交流を深める	
	開催日数等	84回/年	実施場所 各園・校 他
	参加者数	679 人	家庭教育支援員 8 人
	<概要・特徴>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育学級（年少・年中・年長）家庭教育学級（小学一年生）親子教育学級（中学一年生）の保護者が対象。 ・子育ての不安や悩みは、子供がいくつになってもなくなることはないため、子供の成長にあわせて継続的・計画的に教育学級を設置している。 	
	<活動上の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> ・親の意識を高める活動や親子のふれ合いを深める活動。そして親自身のリフレッシュを図る活動をおりませ、正副学級長と担当で学習会を計画立案。 ・その一つの学習会で「家庭教育支援員によるグループワーク」を実施。 	
	連携先	町内保育園・幼稚園・小学校・中学校 他	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子の活動を意図的に組み込んでいくことはとても大きな意義と成果があり、どの活動についても保護者からは好意的な意見が多い。 ・地域の方に講師を依頼するなど、地域との交流もできている。 		
課題等	・働いている保護者が多いため、教育学級の活動や活動内容を学校行事や教育計画に合わせる必要がある。		
備考			

参考URL	
-------	--